

同志社英學校規則

又 6

9206

E 62

2 3 4 4 5 6 6 7 8 9 9 20 1 2 3 4 4 5 6 6 7 8 8 9 9 30 1 2 3

同志社設立之主意

同志社設立之主意

抑弊社ノ設立ハ實ニ明治八年ノ秋ナリキ而テ其主意
トスル所ハ真正ノ文化ヲ翼成セント欲スルニ在リ蓋
シ我國維新以來奎運大ニ張リテ教育頓ニ振ヒ國事皆
改新進ムアツテ退クノ勢ナキモ世人多クハ智識ノ開
發ニ偏傾シテ道德ノ如何ヲ思慮スル者甚ク鮮ク人情
日ニ浮薄ニ流レテ道義漸ク將サニ地ヲ掃ハントス是
レ猶車ノ隻輪ヲ損シ鳥ノ片翼ヲ失フガ如ク未タ以テ
完全ナル教育ト爲シ難キハ寧ロ識者ヲ待テ之ヲ知ラ
ンヤ我輩心ヲ此ニ痛マシムルヤ久シ茲ニ善良ノ教育
ヲ以テ少年子弟ノ志氣ヲ陶冶シ普ク歐米ニ行ハル、
所ノ學術ヲ授ケテ其智徳ヲ並進セシメ我輩ガ常ニ慨
歎スル所ノ惡習弊風ヲ一洗シ大ニ世ノ文化ヲ完全ノ
針路ニ進メント欲シ向キニ同志輩ト相謀リテ一社ヲ
設立シ之ヲ名ケテ同志社ト曰ヒ品行端正學術練達ノ
米國人「デウイス」氏ヲ聘シテ之レカ教授ヲ委托セシコ

幸ニシテ有志輩ノ笈ヲ負フテ來リ學ブ者陸續踵ヲ接シ
 シ裘葛ヲ易フル未タ幾回ナラサルニ生徒ノ學術斐然
 トシテ進歩ノ實效ヲ見ハシタルヲ以テ欣喜措カス更
 ニ又米國理學博士「ラール」子ツト「醫學博士」「ゴルドン」神
 學博士「グリー」諸氏ヲモ聘シ且我社友ニシテ汎ク洋
 籍ニ涉リ甚々教育ニ熱心ナル内國教員數名及ヒ漢學
 教員一兩名ヲ招イテ專ハラ教育ニ從事セシメ將サニ
 以テ寸進尺進之レカ改良ヲ圖ラントス又本社學校ハ
 市中ニアリト雖ヒ廣濶ニシテ閑靜ナル良地ヲ占メ塾
 舍ハ清潔ニシテ一ニ健康ノ裨益ヲ謀リタレハ有志ノ
 諸君ハ左ノ規則ヲ熟覽アリテ其子弟ノ來學ヲ促サレ
 ノ「我輩」ノ切ニ冀望スル所ナリ

校則

校則

- 第一條 本校ハ英語ヲ以テ高等普通學科ヲ授ク
ル所トス
- 第二條 生徒ハ滿十三年以上タルヘシ
但事宜ニヨリ滿十三年以下ノ者ニ入
校ヲ許ス「モアルヘシ
- 第三條 通學生徒ハ當市中ニ於テ其父兄或ハ近
親アル者ニ限ルヘシ
- 第四條 新入生徒募集ノ期ハ每年九月上旬ト定ム
但シ他所ニ於テ既ニ幾分カ英學ノ修
業ヲ爲シ先入生徒ト共ニ進ミ得ルノ
見込アル輩ハ試験ノ上何時タリヒ入
校ヲ許スヘシ

第五條

入學セント欲スル者ハ寄塾通學ヲ論セ
ス入校ノ時束脩トシテ金壹圓ヲ納ムベ
シ

第六條

生徒ハ寄塾通學ノ別ナク受業料トシテ
每期（教則ノ部ニ）金貳圓五十錢ヲ納レ入
塾生ハ又食料トシテ毎月金三圓ヲ納ル
ヘシ

但シ食料ハ物價ノ高低ニ從ツテ増減
スルコトモアルヘシ

第七條

半期以前ニ入塾スル者ハ必ス全期ノ受
業料ヲ納ル可シ半期以後ニ入塾スル者
ハ全期授業料ノ半額ヲ納レシム

第八條

寄塾生徒ヨリ每期差出ス可キ受業料ハ

第九條

開期ノ前日又毎月ノ食料ハ前月ノ末日
迄ニ納ムヘシ

第十條

通學生徒ヨリ差出スヘキ受業料モ亦前
條ニ同シ
生徒ハ克ク諸規則ヲ遵守シ品行ヲ正シ
互ニ禮節ヲ守リ交誼ヲ盡シ只管各自ノ
品格ヲ養成シ學事ヲ勉勵スルヲ主トス
ベシ

第十一條

生徒入學中（時ト處ヲ問ハス凡ソ本）飲食
登樓喧嘩等ハ勿論凡テ淫樂箇マ敷場所
芝居淨留義太（夫揚弓場等ヲ云）ニ立寄ルコト堅ク禁ス
本校ノ事務ハ左ノ三役ヲ置テ之ヲ管
理ス

第十二條

校長 教員 庶務

校長ハ校中百般ノ事務ヲ總理スルヲ以テ職トス

教員ハ校長ノ指揮ニ從ヒ本校ノ學則ヲ守リ諸科ヲ教授シ生徒ノ勤惰及品行ノ正否ヲ督シ學期試業ヲ施行スル等凡テ學事ノ諸務ヲ擔當スルヲ以テ職トス

庶務ハ校長教員ノ指揮ニ從ヒ校中諸般ノ雜務ヲ理スルヲ以テ職トス

一月俸月謝取經ノ一

一賄方取締ノ一

一本校ノ雇人ヲ支配スルノ一

一家屋保存修繕ノ一

教則

第一條

本校ハ正則英語ヲ以テ諸學課ヲ教授シ且和漢文學ノ一科ヲ加ヘ專ラ作文ヲ修習セシム

第二條

但生徒中己ニ本校課目ノ和漢學ヲ終ヘタル者ハ試験ノ上其就學ヲ免除スヘシ尤作文ハ此限ニアテス

當今教授スル所ノ學科ハ左ニ記載ス學業進步ノ便宜ニ因リ臨時ノ改正ヲ爲ス

英

生科目	第一年		
	第壹并第二	第三并第四	讀本マツツゴフ
英語會話	毎日	、	英文典スウ#ント
福音書	、	、每週	、三回
英文法スウ#ント	、	、每週	、二回(但シ隨意)
筆算デヴ#ス	、	、二回	代數ル#ス

第三條

正課卒業期限ハ五年トス
但便宜ニヨツテハ卒業ノ后更ニ課外
ノ修業ヲ許スベシ

第四條

和漢學科等級ハ三年以上ノ生徒ヲ以テ
編成スヘシ

第五條

一年ヲ分チ三期ト爲シ本年度第壹期ハ
九月十五日ヨリ初マリ十二月十九日ニ
至ル第二期ハ一月五日ヨリ三月廿七日
ニ至ル第三期ハ四月六日ヨリ六月廿六
日ニ至ル

第六條

受業時間ハ午前七時半ヨリ始マリ正午
十二時ニ至リ午后一時ヨリ四時ニ至ル

第七條

授業時間五分前先ツ報鐘ヲ以テ注意セ

第八條

シメ二分前再報シテ始業ノ正時ヲ報ス
生徒ハ凡ヘテ毎朝七時三十五分ヨリ八
時迄公會ニ出席シ德育上ノ講話ヲ聽ク
トヲ要ス

第九條

生徒若シ疾病事故アリテ欠席又ハ遅刻
ニ及フキハ豫メ其情實ヲ陳述シ擔當教
員ノ認許ヲ受ク可シ

第十條

但疾病二日ヲ過ルキハ醫師ノ診斷書
ヲ差出シ爾後一週日以上ニ及フキハ
毎週新ニ之ヲ差出スヘシ且ツ至急ノ
事故在テ豫メ認許ヲ受クルヲ能ハサ
ルキハ事終ルノ後直チニ之ヲ受クヘシ
若シ前條ノ規則ニ違背スルヲ二回以上

第十一條

ニ及ブキハ相當ノ處分ニ及ブヘシ
各科教員ハ自己ノ授業セル生徒ノ勤惰
ヲ記録ス可シ

第十二條

授業時間中生徒若シ止テ得サル事故アリテ教場ヨリ出ルテ要セハ宜シク先ツ其由ヲ教員ニ告ケ許可ヲ得テ后出場ス可シ

第十三條

一年ノ生徒ハ每朝十時ヨリ十二時迄ノ間校堂ニ出席シテ靜カニ勉強スルヲ要ス

但シ不得止事故アツテ出席セザルカ又ハ退席スルキハ出席教員ノ許可ヲ受クベシ若シ之ニ違背スルキハ凡テ

第十四條

第十條ノ通り心得可シ
每學期ノ末ニ於テ試業ヲ爲シ生徒ノ等級ヲ定ム

第十五條

疾病事故アリ定期ノ試業ニ洩レタルモノ若シクハ落第ノ后再試業ヲ願フモノハ次期ノ初ヨリ二週日以内ニ之ヲ受クヘシ然ラスノハ在學スルヲ許サス

第十六條

休日ハ毎週土曜日曜ノ兩日且紀元天長ノ兩節ト定ム

塾則

第一條

每學期ノ初メニ於テ互室交代スヘシ
但シ交代ハ四年以上ノ生徒中ヨリ生徒全員(秋期交代ニ限リ新入ノ)ノ投票

第二條

ヲ以テ各寮一各宛ノ委員ヲ撰ヒ校長及
 擔當教員ト協議ノ上之ヲ執行スヘシ
 各寮投票ヲ以テ寮長一名ヲ撰マシメ專
 ラ其ノ寮内生徒ノ行狀ヲ督シ切ニ諸規
 則ヲシテ紊レサラシメノヲ主任トス
 主任ノ大綱左ノ如シ
 一時々寮内ヲ巡視スル
 一生徒ノ外泊及歸校等ヲ調査スル
 一午后九時半ニ至レハ其寮内ノ生徒ヲ
 調査スル事
 一生徒中犯則者アルキハ直ニ之ヲ擔當
 教員ニ報告スベシ
 但シ寮長ハ每學期互室交代ノ節改

第三條

撰スヘシ
 生徒若シ不得止事故アツテ遠方〔京都市中ヨリ五里外〕ニ出ルカ又ハ市中ト雖モ一宿スルキハ豫メ擔當教員ノ許証ヲ受ケ之ヲ寮長ニ差出ス可シ若シ外出先ニ於テ至急事故アツテ遠行シ又ハ止宿スルキハ其出先ヨリ証書ヲ受ケ歸塾ノ節之ヲ擔當教員ニ示シ更ニ其許証ヲ受ケ之ヲ寮長ニ差出スヘシ

第四條

午后九時半ヲ以テ門限ト定ム故ニ生徒若シ不得止事故アリテ外出スルニ豫メ門限ニ後ル、事ヲ知ラハ其由ヲ寮長ニ告ケ已レノ名札ヲ差出シ外出スヘシ又

寮長ハ之ヲ門番ニ渡シ置クベシ
 但歸塾ノ節ハ其名札ヲ門番ヨリ受取
 ルヘシ外出先ニ於テ臨時事故アツテ
 門限ニ後ル、キハ其出先ヨリ遅刻ノ
 証書ヲ受ケテ寮長ニ差出スヘシ
 第五條
 午前五時半ヲ晨起ノ時トシ同六時ヲ以
 テ朝食正十二時ヲ以テ晝餐五時半ヲ以
 テ晚餐ノ時トス
 但食時ハ日ノ長短ニヨリテ之ヲ斟酌
 スヘシ食時ヲ報スルハ受業時刻ヲ報
 スル如ク報鐘ヲ用ユ
 第六條
 午後九時半ニ至レハ各寮長其寮内ノ生
 徒ヲ巡視ス故ニ九時半ヨリ五分以内生

第七條
 徒各其室内ニ在席スルヲ要ス
 午後十時ヲ以テ入寐時刻トシ必ス燈火
 ヲ消シ炭火ヲ滅スヘ
 第八條
 室内ニ於テ燒燃シ易キ物近クニ火鉢ヲ
 置キ夜中接火シテ就床スルヲ禁ス
 第九條
 午後十時ヨリ翌午前五時ニ至ル迄ハ校
 内ニ於テ發聲シ或ハ騷擾スヘカラス
 第十條
 午前五時ヨリ午後十時迄タリヒ生徒ノ
 廊下階梯等ニ於テ高聲ニ談話シ且騷ハ
 カシク往來スルコトヲ禁ス
 第十一條
 室内ニ於テハ土曜日ヲ除クノ外音讀ス
 ルコトヲ禁ス
 第十二條
 教場或ハ室内ノ玻璃障子其外校中ノ物

品ヲ毀テタル者ハ修繕費ノ全額ヲ償納スヘシ

第十三條

學校附屬ノ器械等ヲ擔當教員ノ許可ナクシテ猥リニ用ユルコトヲ禁ス

第十四條

食時或ハ不得止事故ノ外猥リニ食場ニ立入ルコトヲ禁ス

但シ事故アツテ食時ノ外食場ニ入り飲食スルコトヲ要セハ宜シク寮長ノ許可ヲ受クヘ

第十五條

塾内ニ於テ喫烟スルヲ禁ス

第十六條

生徒ハ毎朝自室ヲ掃除シ宜シク之ヲ清潔ニ保ツヘシ

第十七條

掃除人ハ毎朝朝飯時ヲ以テ塾内ヲ掃除

ス故其後ニ至リ塵埃ヲ廊下等ニ散ラスベカラス

第十八條

種々物品ヲ廊下或ハ椽ニ散シ置ク可カラズ

第十九條

塵埃ハ定リノ箱ニ入ルヘシ敢テ窓外ニ投捨ルテ許サス

第一條

入校退校ノ則

本校ノ諸規則ニ從ヒ入學ヲ求ムル者ハ

左ノ科目ニ於テ試験ヲ受クヘシ

講讀 日本外史若クハ十八史畧

作文 普通（片假名交）文体ノ記事論說文

數學 筆算分數ノ終リ迄

第二條

入學ノ節ハ其父兄或ハ身元慥ナル者ヲ

以テ證人ト爲シ其保証狀并ニ種痘若クハ天然痘ノ證符ヲ携ヘ且本籍所在ノ戶長ヨリ當校ヘ寄留ノ証書（通學生ハ寄留ノ証ヲ要セス）ヲ請得テ來校スヘシ

但シ保証人ハ成ル丈ケ當府内ノ人ヲ擇フヘシ若シ証人移住セバ其趣ヲ直ニ申出テ置クヘシ

諸証書ハ本校庶務局ヘ差出スヘシ

保証狀雛形 但シ証券界紙ニ認ムヘシ

保証狀

何府 何縣 何國 何郡 何町 何番地

何府縣華士族平民何誰子弟厄介

何誰

明治何年何月何年何ヶ月

右今般入校相願候上ハ御校規學則等堅爲守可申候儀ハ勿論當人ノ所業ヨリ起候一切ノ事件ハ拙者引請可申候尤退校ノ節ハ拙者罷出ルカ又ハ証書ヲ以テ御斷可申上候依テ証書如件

年月日 何府縣華士族平民 証人 何誰印 宿所

同志社英學校々長新島襄殿

第三條

退校スルキハ証人ヨリ其趣ヲ委シク認
メタル証書ヲ庶務局ニ差出シ校長ノ許
可ヲ受クヘシ

第四條

退校証書ヲ差出サ、ルモ日課欠席四ケ
月ニ及フキハ退校ト見做スヘシ

職員表

校長

京都府

新島 襄

右歐米漫遊中

代理 山本覺馬

教員

米國神學博士

デー、ジエー、デウイス

同

理學博士

ドワイト、ダブリウ、ラルチーデ

同

醫學博士

エム、エル、ゴルドン

同

神學博士

デー、シー、グリーン

同

熊本縣

森田久万人

同 京都府 市原盛宏

同 熊本縣 下村孝太郎

漢學教員岡 山縣 岡 本 某

庶務 京都府 伏見 通

上京區第拾組相國寺門前町壹番戶 同志社

同志社規則附言

一月分學費豫算表

一謝金 每期金貳圓五拾錢即チ一ヶ月金八拾錢位ノ割合ナリ

一月俸 金三圓 月今二圓五十錢

一外ニ入校ノ節束脩トシテ金壹圓ヲ納メ且其節入用

ノ物品ヲ購求スルノ外筆紙墨燈油下駄傘入湯洗濯

等ノ費用トシテ金五拾錢ヨリ壹圓ト見積リ書籍見

料トモ合テ壹圓七八拾錢ヲ出テサルヘシ

一 本校所用ノ教科書籍ハ相當ノ見料ヲ受ケ貸渡ト雖

モ(第一、年科ノ分ハ此限ニテアラズ)自ラ購求ヲ望ムノ輩

ニハ廉價ヲ以テ之ヲ得セシムルノ方法ヲ設ケタレ

ハ卒業迄ノ(書籍料ハ)ウヰヰブストル大辭書モ合セテ

四拾三四圓ニ過サルヘシ(四十五圓)

一 入校ノ生徒中少年ニシテ理財ニ慣レサル輩ハ金圓

ヲ浪費スルノ憂ナキモ保証シ難ケレハ生徒ノ父兄

又ハ引受人ヨリ委頼アラハ一二期分ノ所ハ本校庶

務ニ預リ置キ凡豫算表超過セサル様注意シテ相渡

スヘシ

一 書籍室ノ設アリテ現今已ニ千四百余部ニ及ヒタレ

ハ入校ノ生徒ニハ無見料ニテ貸シ渡シ且室中内外

ノ新紙ヲ集メ置キ生徒ノ縦覽ヲ許ス

